


# 名前の発音

中村則子

## ◆お名前は？

皆さんの名前は、日本人にすぐわかってもらえるだろうか。例えば、トムさんや、マリアさんという名前であれば、所謂(いわゆる)外国人の名前として日本人に認知されているので、問題はないだろう。しかし、ムンフトルさんや、アカラッチャイさんはどうだろうか。ある学生は、自分の名前を何度繰り返しても、わかってもらえないので、自己紹介するのが怖くなってしまったと言っていた。



## ◆グラボースキーさん

まだ駆け出しの教師だったころ、グラボースキーさんというフランス人の学生がいた。「グラボースキー」という名前は、東欧系の名前で、フランス人としては、珍しいものだった。そのため、フランスにいた頃にも、名乗ると必ず２～３度聞き返されたそうである。しかし、日本では、問題は更に深刻だった。グラボースキーの「グラ」が“gra”なので、彼がフランス語の発音で“Grabowski”と言っても、日本人は繰り返すことも、メモを取ることもできなかったのである。ご存知のように、フランス語の”r”は喉の奥のほう（口蓋垂(こうがいすい)）のふるえ音または摩擦音で、うがいをするときのような音を出して発音する。日本語にはない音なので、当然それを表記する日本の文字もない。彼は何度も正しい発音で名前を繰り返したが、相手は、悲しそうに彼の目を見つめるだけだったそうである。

ある日、私はグラボースキーさんと一緒にレストランに行った。店に入ると、店主が「あー、スミスさん。久しぶりですね」と言ったので、びっくりした。彼は、ちょっと照れくさそうに笑って、「僕はクリーニング屋やレストランではスミスなんです」と説明した。一瞬、彼の日本での苦労を垣間(かいま)見たような気がして、胸が痛んだ。そしてその後しばらく、「グラボースキー」というカタカナの発音を教えるべきかどうか、悩んだ。名前の発音を変えることは、彼のアイデンティティーに関わる問題かもしれない。いや、名前のことで、いつも煩(わずら)わされるのは、彼も望まないはずだ…　結局、採用するかしないかは彼に任せることにして、「グラボースキー」という発音を教えた。彼は、カタカナで書かれた「グラボースキー」を何度も発音練習した。しかし、数日後、うちの留守番電話に残されたメッセージには、「Grabowskiです」と、うがいをするような発音で録音されていた。やはり彼は、自分の大事な名前を日常生活の便利さのために売り渡すつもりはなかったようである。

◆「フット」

もうナイーブな新米教師ではなくなった私は、今、発音クラスで堂々と名前のカタカナ読みを教えている。いろいろな学生と話した結果、カタカナ読みは、もう一つ名前が増えたようで、楽しく、結構気に入っているという意見が多かったからだ。実際、私も中国語をかじったとき、先生から自分の名前の中国語読みを教えてもらい、何かもう一つの人格を得たようで、ワクワクした気持ちになった。

では、カタカナ読みのコツを紹介しよう。「フット」(日本語のリズム単位) を意識すると、日本語らしいリズムになり、日本人にとって聴き取りやすくなる。１フットは、カタカナ（ひらがな）２字で作る。

例えば、「マツバラノゾム」は、(マツ)(バラ)(ノゾ)(ム) となり、４つの「フット」で構成される。最後の「ム」はカタカナ１字であるが、隣に字がないので、それだけで「フット」を作る。普通はカタカナ２字で１フットであるが、小さい「ヤユヨイエ」は例外である。「チャ」「ニュ」のように、前のカタカナと一緒になって初めて１字と数えられるので、「チャイ」で２字となり、１フットを構成するのである。例えば、「コイズミジュンイチロー」は、(コイ)(ズミ)(ジュン)(イチ)(ロー)となり、５フットである。(小さい「ヤユヨイエ」と違って、小さい「ツ」は１字と数えるので注意)。

では、実際にカタカナの名前でフットを作ってみよう。

① カタカナで名前を書く。

例：ス　ティ　ー　ブ　ン　ス

② 長音（のばす音）、撥音（ン）、促音（小さいツ）、二重母音（ai・oi）があったら、前の字と一緒にし、１フットとして先にまとめる。

例： ス (ティー)(ブン) ス　　アカ (ラッ)(チャイ)　　グラ (ボー) ス (キー)

③ 余った字を隣同士２字でまとめ、１フットを作る。隣に字が余っていない場合は、１字のままで構わない。

例： (ス)(ティー)(ブン) (ス)　(アカ)(ラッ)(チャイ)　(グラ)(ボー)(ス)　(キー)

④ １フット ( ) をひとつのまとまりであると意識して、読む。

◆バラの名前

どうだろうか。あなたの名前を、日本語らしく言うことができただろうか。本当の名前と違う発音、違うリズムは、どことなく落ち着かないかもしれないが、あなたはあなたであ

る。シェークスピアも戯曲の中で、次のように言っている。



*「名前ってなに？*
*バラと呼んでいる花を*
*別の名前にしてみても*
*美しい香りはそのまま」*（小田島雄志訳）